



発行所 島根日日新聞社 〒693-0001 出雲市今市町743-22

山陰あれこれ

138

番外編

令和3年7月11日(掲載予定なし)

畏友・福山琢磨氏からのプレゼント

酒井 董美 ただよ

上の写真は第二次大戦の直後、敵国アメリカが飛行機上から散布したB五判程度の「伝単」(ピラ)『落下傘ニュース』(発行所・マニラ米軍司令部)復刻版の一部である。日付は終戦三日後の昭和20年8月18日(土曜日)である。裏面には「ポツダム宣言の内容」が示されているが前文は「アメリカ合衆国、大英帝国及び中華民国政府首脳者によって発表された次の宣言は、合衆国大統領及び英首相チャーチル氏によってポツダムに於て調印せられ、中華民



國主席の同意を見たものである。」と全文が出ている。南方の島々では、住民や日本兵はジャングルへ逃げ込み敗戦を知らないため、米軍がビラを撒き知らせたのである。

この八月で第二次世界大戦が終わって間もなく七十六年を迎える。それを記念するようにこの貴重な資料を送ってくださった方は、倉吉市出身で大阪で新風書房を経営されている畏友・福山琢磨氏(昭和九年生)である。実は氏はこの他に次のものも同時に送ってくださっている。一部だけ紹介しておく、復刻版『大阪毎日新聞』第一夕刊(昭和十六年十二月九日)、『讀賣報知』(昭和二十年八月十五日)、投下された『落下傘ニュース』(昭和二十年六月三十日、および八月十八日)、『決戦画報』(合輯)、『モノ』が語るあの日の記憶展』冊子などである。

福山氏の新風書房は、昭和六十三年から全国に公募した入賞作品七十編前後を掲載し、毎年発行の単行本『孫たちへの証言』で知られている。昨年三十三集で惜しまれつつ終刊となったのは、中心となつてこられた氏の健康問題が一因という。記録によると投稿総数は二〇、五三〇編。掲載されたのは二、六〇九編となつている(「自分史づくりの情報誌『My-History』97号)。筆者も平成十九年の第二十集に「焼夷弾からツクシへー大阪大空襲と私ー」というタイトルで掲載されたことがあった。

氏と親しくなつたのは、筆者が鳥取短期大学に勤めていた平成十三年(二〇〇一)六月にお便りで知り合い、十五年三月二十七日に鳥取短期大学で初めてお逢いし、お互い中学校時代から新聞部だったことで意気投合。翌十六年八月には大阪の鳥取県人会に筆者を鳥取出前講座の講師として呼んでくださり、「鳥取の民話とわらべ歌」を話した仲なのである。こうして何の利益も前提としない善意の交遊のありがたさに感謝しつつ、氏のますますのご活躍を願っている筆者なのである。(元島根大学法文学部教授)